

処理水放出月末にも 日米韓首脳会談後に決定

東京電力福島第一原発の処理水の海洋放出について、政府は18日の米、韓国との首脳会談後に放出時期を決める方向で調整に入った。岸田文雄

首相が米國から帰国後に関係閣僚会議を開いて決定する。政府が「夏ごろ」としてきた海洋放出は、早ければ8月末にも始まる見通しだ。複数の政府

関係者が明らかにした。首相は18日に米・ワシントン郊外である日米韓首脳会談に合わせ、米國のバイデン大統領、韓國の尹錫悦大統領と個別に

会談する予定。両首脳に処理水の安全性や放出後の対応などを説明して理解を得たうえで、放出時期を最終決定する。首相は全国漁業協同組合連合會の関係者らとも面会し放出について自ら説明する方向で調整している。

首相官邸の幹部らは、時期を決めてから実際に海洋放出するまで、準備作業や周知などで1週間以上は必要とみている。一方、福島県沖では9月

から底引き網漁が解禁され、漁期に入ってから放出開始は避けたい考え。このため、今のところ8月末ごろから放出を始める想定をしている。官邸幹部らは、米國での首脳会談を経て放出時期を決定する理由のひとつに、韓国政府への配慮があるとする。韓国内では、海洋放出に一定の理解を示す尹政権に批判もある。会談前に放出時期を決めれば、放出をめぐる会談での尹氏の対応に焦点があたり、来年総選挙を控える尹政権にマイナスと判断したという。また、海洋放出に強く反対する中国に対し、日米韓で足並みをそろえて対応していることをアピールする狙いもある。日本政府は、国際会議の場などで中国側の主張が科学的根拠に基づいていないと強調しており、首脳会談を機に改めて正当性を内外に示したい考え。